

平成29年度当初予算編成方針

以下の基本方針に基づき、予算編成に取り組みます。

1 第8次豊田市総合計画財政計画（案）の考え方

わが国の景気は、このところ弱さもみられますが、緩やかな回復基調が続いています。しかし、本市の財政は、急激な為替変動や国の税制改正（法人市民税の一部国税化及び法人実効税率の引下げによる法人税率の引下げ）の影響を受けると共に、地方交付税の合併特例措置が終了するなど、大幅な歳入の減少が見込まれ、歳入に見合った予算規模への転換を図る必要があります。

現在、策定中の第8次豊田市総合計画財政計画は、こうした環境変化に対応するための財政運営の方針を示すものです。厳しい財政状況の中でも市民生活に直結した事業及び実践計画事業を確実に推進していく必要があるため、これまでの発想にとらわれず事業の選択と集中を図ります。

これらの考え方は、平成29年度当初予算編成に反映させます。

2 予算編成の基本方針

平成29年度は経済情勢の変動を受け、歳入の基幹となる市税収入の大幅な減少や、歳出面で高齢化による社会保障費の増加が見込まれます。財政の持続可能性を念頭におきつつ、このような極めて厳しい財政状況の下でも、市民生活に直結した事業についての予算を確実に確保します。また、駅前通り北地区市街地再開発事業の完成や、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたまちづくりへの投資など、本市が持続的に発展するため真に必要な予算を配分します。

平成29年度は、第8次豊田市総合計画のスタートの年であり、予算規模適正化に向けてのスタートの年でもあります。歳入に見合った予算規模へのソフトランディングを図るため、歳入確保に積極的に取り組み、徹底した行財政改革を進めます。

- (1) 第8次豊田市総合計画を着実に進める予算配分をします。
- (2) 事業や経費の見直し、積極的な歳入確保など、財務体質の強化に向けた取組を徹底します。
- (3) 普通建設事業費は、限られた財源の中でも300億円以上を確保します。
- (4) 市債、基金は健全財政維持に向け残高に配慮し、急激な予算規模の縮小を避けるため、有効活用を図ります。

(具体的な取組)

(1) 第8次豊田市総合計画重点施策事業への重点的・優先的な予算配分

【重点施策(案)】

- ① 超高齢社会への適応
～安心して自分らしく暮らすことができる多世代共生のまちの実現～
- ② 産業の強靱化
～暮らしと活力を支える強固な経済基盤のあるまちの実現～
- ③ 暮らしてよし・訪れてよしの魅力創出
～定住・交流人口を引き付ける魅力のあるまちの実現～

(2) 財務体質の強化に向けた取組

【事業や経費の見直し】

- ① 新規、拡大事業は、スクラップ&ビルドを徹底
- ② これまでの事業手法を前提とせず、事業の目的、効果を再確認し、事業の選択と集中を図る
- ③ 事業の選択と集中を図った上で、最少の経費で最大の効果を上げるための支出の最適化の取組を推進
- ④ 決算に基づく適切な予算配分。特に、未執行額の大きな事業の積算内容を見直し予算削減を行う

【積極的な歳入確保】

- ① 国県の情報収集、歳入可能な特定財源の積極的活用
- ② 民間資金の活用
- ③ 市保有財産最適化方針に基づく売却・貸付等の推進
- ④ 広告事業の拡大
- ⑤ 豊田市債権管理条例の趣旨を踏まえた未収債権の削減

(3) 特別会計、企業会計、公社協会等の対応

特別会計、企業会計、公社協会等も本方針を周知徹底